

県内企業の地域貢献活動に関する調査結果

第2弾

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団では、「県内企業の地域貢献活動に関するアンケート調査」を実施しました。この調査では、令和元年9月にみえ次世代育成応援ネットワーク企業会員およびみえこどもの城協力企業795社にアンケートを実施し、三重県内の企業の地域貢献活動についての現状、考え方、要望等を集計・分析しました。

同年12月には調査結果の第1弾として、業種・所在地等の基本情報および、地域貢献活動の実施状況、みえこどもの城との連携についてのアンケートの集計結果と、回答いただいた企業の中から特徴的な取り組みを行っている企業をピックアップして紹介しました。

今回は、前回の調査結果から、企業が取り組む地域貢献活動の分野の中で特に多かった「子ども・子育てに関する活動」に焦点を当て、地域貢献活動に対する企業の目的や狙いなどを分析しました。

調査の目的

三重県立みえこどもの城では年間100社を超える県内の企業にご協力いただき、様々なイベントを実施しています。今後も地域の企業と連携して子どもを地域で見守っていきたいと考えています。地域貢献活動に関する調査をすることで、企業の現状、考え方、要望を伺い、今後の事業に活かすことができればと考え、アンケートを実施しました。

調査方法

対象 みえ次世代育成応援ネットワーク企業会員 および
みえこどもの城協力企業 795社
調査方法 郵送でアンケート用紙を配布・回収
期間 令和元年9月1日～20日
回答数 190社 (23.90%)

1. 「子ども・子育てに関する活動」を実施している企業と、実施していない企業の違い

①「子ども・子育てに関する活動」の実施状況

実施している	126	76%
実施していない	36	24%

②地域貢献活動を始めた理由

実施している、実施していないに関わらず「地域の企業として当然のことだから」と回答した企業が最も多い。

実施している企業のTOP 3

地域の企業として当然のことだから	83	66%
長い目で見れば企業の利益になると思うから	53	42%
企業の評価が高まると思うから	38	30%

実施していない企業のTOP 3

地域の企業として当然のことだから	18	50%
長い目で見れば企業の利益になると思うから	17	47%
企業の評価が高まると思うから	11	31%

③地域貢献活動により得られた具体的な効果

実施している、実施していないに関わらず「地域の方々とつながることができた」と回答した企業が最も多い。

実施している企業のTOP 3

地域の方々とつながることができた	76	60%
企業のPRや利益につながった	47	37%
従業員のチームワークやモチベーションが向上した	36	29%

実施していない企業のTOP 3

地域の方々とつながることができた	13	36%
企業のPRや利益につながった	12	33%
従業員のチームワークやモチベーションが向上した	8	22%

【問い合わせ先】

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 三重県松阪市立野町1291

TEL / 0598-23-7735

Eメール / office@mie-cc.or.jp

④みえこどもの城と連携しやすいイベント

実施している、実施していないに関わらず「高校生・大学生など就職を考えている若者と交流できるイベントへの参加・協力」と回答した企業が最も多かった。

実施している企業のTOP 3

高校生・大学生など就職を考えている若者と交流できるイベントへの参加・協力	75	60%
子育て家庭と交流できるイベントへの参加・協力	44	35%
他団体や他企業と交流できるイベントへの参加・協力	33	26%

実施していない企業TOP 3

高校生・大学生など就職を考えている若者と交流できるイベントへの参加・協力	14	39%
他団体や他企業と交流できるイベントへの参加・協力	11	31%
子育て家庭と交流できるイベントへの参加・協力	9	25%

⑤みえこどもの城に協賛・協力しやすい方法

実施している企業は、「自社をアピールするイベントへ出展協力する」への回答が最も多かったのに対し、実施していない企業は「特定の事業に対して、寄付または協賛金で協力する」への回答が最も多かった。

実施している企業のTOP 3

自社をアピールするイベント(キッズおしごと広場など)へ出展協力する	48	38%
自社発信のツール(SNS)などを活用してPRに協力する	35	28%
特定に事業に対して、寄付または協賛金で協力する	31	25%

実施していない企業TOP 3

特定の事業に対して、寄付または協賛金で協力する	11	31%
自社をアピールするイベント(キッズおしごと広場など)へ出展協力する	8	22%
参加・協力できない	7	19%

「子ども・子育てに関する活動」を実施している・実施していないに関わらず、「地域貢献活動を始めた理由」「地域貢献活動により得られた具体的な効果」「みえこどもの城とどのようなイベントであれば連携しやすいか」に大きな違いは見られなかった。

「みえこどもの城に協賛・協力しやすい方法」については多少の違いは見られたが、「自社をアピールするイベントへ出展協力する」はどちらの企業も多く、「子ども・子育てに関する活動」を実施しているか・実施していないかに、あまり関係のないことが伺える。

2. 自由記述から分析する地域貢献活動に対する企業の思い

【1】企業がみえこどもの城でやりたいこと

アンケートの項目に、「今後、貴社がみえこどもの城できたら良いと思うこと」について自由記述を設けたところ44件の回答があった。

回答の内容を、「イベントの共催」、「自社製品の販売・提供」、「サービス・企画の提案」、「企業説明会・職場体験の開催」、「自主企画の実施」、「その他」に分類し、集計した。

①企業がみえこどもの城でやりたいこと

「企業説明会・職場体験の開催」が最も多かった。その中でも、「就職を考えている高校生との交流」を希望している企業が16社あった。

企業説明会・職場体験の開催	19	43%
サービス・企画の提案	6	14%
自主企画の実施	6	14%
イベントの共催	3	7%
自社製品の販売・提供	3	7%
その他	7	16%

※うち、「就職を考えている高校生向け」と特記する企業16社

【2】企業が行っている地域貢献活動の取り組みへのコメントから見えるもの

アンケートの項目に、「貴社の社会貢献活動で特に力を入れておられることや、特に効果があった取組などがあれば具体的にご教示ください」という自由記述を設けたところ、57件の回答があった。

①ヒアリングへの可否

上記の項目に記述した内容について後日ヒアリングをしてよいかとの質問に対して、YESと答えた企業は35社に上った。

	YES	NO	無回答
ヒアリングへの可否	35	12	10
	61%	21%	18%

②ヒアリングへの可否と、みえこどもの城に協賛・協力しやすい方法との関係

ヒアリングについてYESと回答した企業と、NOと回答した企業に分け、それぞれの企業がみえこどもの城へ協力しやすい手段を集計したところ、YESと回答した企業は「自社をアピールするイベントへ出展協力する」と答えた企業が最も多かったのに対し、NOと回答した企業は、「自社発信のツール(SNS)などを活用してPRに協力する」と答えた企業が最も多かった。

ヒアリングにYESと回答した企業のTOP 3

自社をアピールするイベント(キッズおしごと広場など)へ出展協力する	21	60%
子どものためのイベント(児童虐待防止キャンペーンなど)へ出展協力する	12	34%
自社発信のツール(SNS)などを活用してPRに協力する	12	34%

ヒアリングにNOと回答した企業のTOP 3

自社発信のツール(SNS)などを活用してPRに協力する	4	33%
自社をアピールするイベント(キッズおしごと広場など)へ出展協力する	3	25%
特定の事業に対して、寄付または協賛金で協力する	3	25%

「今後、みえこどもの城と出来たらよいと思うことは何ですか?」の自由記述に対して44件コメントをいただいた。

その中でも、「就職を考えている高校生との交流」を希望している企業は16社に上った。

また、企業が行っている地域貢献活動の取り組みについての自由記述のコメントが57件あった。取り組みについての後日ヒアリングについてYESと回答した企業と、NOと回答した企業では「みえこどもの城に協賛・協力しやすい方法」の種類に違いがあった。

総 括

「子ども・子育てに関する活動」および「自由記述からみた地域貢献活動」の2つの視点から企業の地域貢献活動への思いを分析したところ、子ども・子育てに関する活動に取り組んでいる、いないに関わらず、「特定の事業に対して、寄付または協賛金で協力する」や、「自社をアピールするイベントへの出展」という形が、みえこどもの城の事業に対して協力しやすいという結果が得られた。

また自由記述からは、企業は「就職を考えている若者（高校生）との交流」を実施できる場を求めている声が多いことが分かった。

この結果から、地域貢献活動の効果として自社のアピールと若者の職員採用につながることを期待する企業が多いことが分かった。

今回の結果からみても、子どもを支える地域社会のネットワークにさらに企業を巻き込んでいく方法として、企業自身が地域貢献活動に期待する効果を発揮できるイベントを企画することが最も効果的であると考えられる。

現在も、みえこどもの城では、子どもと企業をつなぐイベントとして「キッズおしごと広場」を実施しているが、このイベントは小学生を対象に実施しており、運営ボランティアとして短大生・大学生が関わっている。今後は新たに、中高生向けにも職業体験またはイベントを企画し、進路や就職を考える機会を作ったり、運営ボランティアとして職業高校の生徒が参加したりする事業に取り組んでいく必要があると考える。